

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和2年度技術情報について

令和2年度技術情報第5号を發表したので送付します。

令和2年度技術情報第5号

令和2年8月28日
徳島県

8月3半旬の早期水稲・普通期水稲の巡回調査により、県下全域にトビイロウンカが認められたことから、8月13日付けで注意報を發令したところですが、8月第5・6半旬の普通期水稲におけるトビイロウンカの生息密度は、8月3半旬よりも高まっています。つきましては、9月中旬以降に収穫する圃場では坪枯れの被害が懸念されますので、引き続き適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稲、酒米(山田錦等)及び飼料用米
病害虫名：トビイロウンカ

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 8月下旬～

3 発生状況

(1) 8月第5・6半旬の普通期水稲の巡回調査では、発生圃場率が88.0%、株当たり寄生虫数が1.05頭と平年(12.3%、0.08頭)に比べて高く、一部では、株当たり寄生虫数が6頭を超える圃場も認められており、8月3半旬(発生圃場率が68.0%、株あたり寄生虫数が0.08頭)から高まっている状況である(表1、図1)。なお、増殖力の高い短翅型雌成虫(写真1)の発生圃場率は、8月第5・6半旬の調査では、72.0%であり、8月3半旬(60.0%)から高まっている状況である。

(2) 高松地方气象台が8月27日に發表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

4. 防除法等

(1) 発生程度は、平年より高いことから、発生圃場では薬剤防除に努める(表2)。

(2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。

(3) 防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。

(4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

(5) 飼料用米及び飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」に沿って、適期防除に努める。

表1 トビイロウンカの発生状況

調査時期	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	短翅型雌成虫発生圃場数	短翅型雌成虫発生圃場率 (%)	株当たり寄生虫数 (頭)
8月3半旬	25	17	68.0	15	60.0	0.08
8月5・6半旬	25	22	88.0	18	72.0	1.05
平年 (8月3半旬)	30.5	2	5.1	-	-	0.00
平年 (8月6半旬)	22	3	12.3	-	-	0.08

※調査地域は 西部：三好市、東みよし町、美馬市 北中部：阿波市、吉野川市、上板町、石井町、板野町、藍住町

図1 トビイロウンカの発生推移

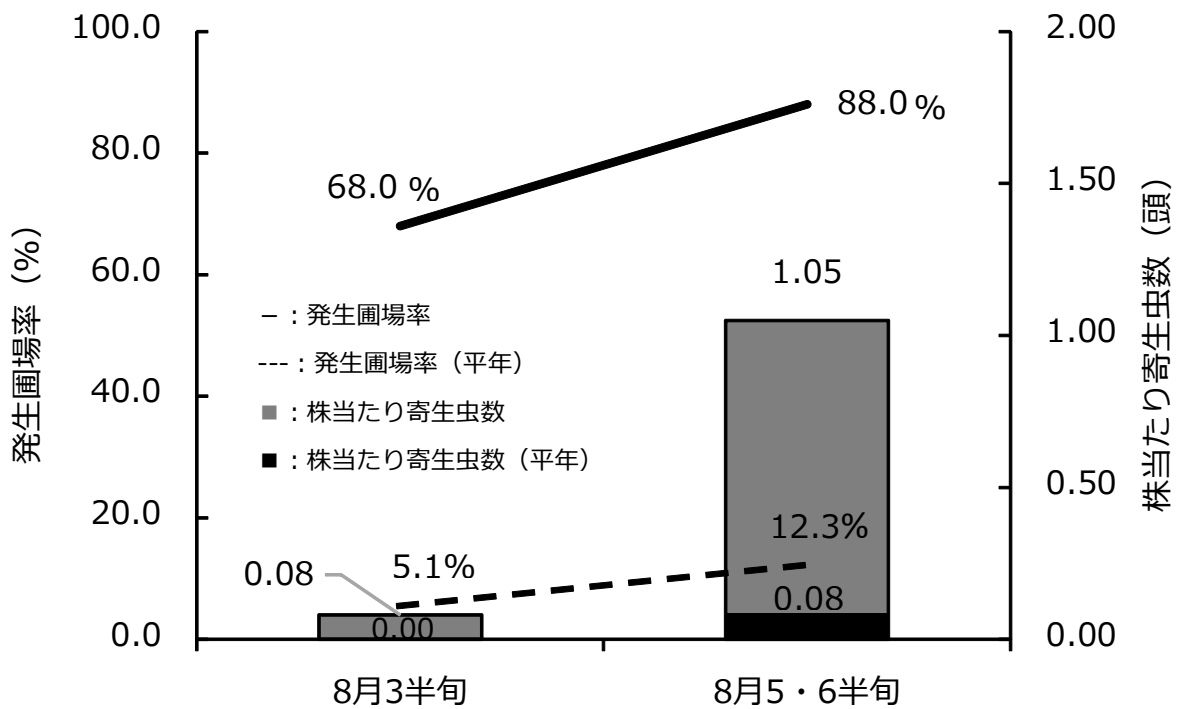


写真1 トビイロウンカ短翅型雌成虫



写真2 株元に生息するトビイロウンカ



写真3 トビイロウンカによる被害(坪枯れ)

表2 トビイロウンカに使用可能な主な農薬(農薬登録内容:2020年8月27日現在)

作物名	農薬名称 (商品名)	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	RAC コード
稲	MR.ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3(A)
	アドマイヤー1粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4A
	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	4A
	アルパリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	4C
	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン水和剤	2000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン乳剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン粒剤	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3(A)
	なげこみトレボン	水溶性容器10個(500mL)/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	本田に水溶性容器のまま投げ入れる	3(A)
	ワイドパンチ豆つぶ	250g/10a	収穫35日前まで	1回	散布	2(B)